

【・・・わたしたちが何をした・・・】

2011年の震災から5年以上が経過した今でも余震と考えられる地震が続いています。先日の地震で津波警報・注意報が発令され、実際に1mを超える津波を観測した地域もありましたから多くの人々が不安な気持ちになられたと思います。私自身、5年前の地震のことを今でも忘れていないかといえば恥ずかしいですが日常あまり意識することがなく、むしろ原発事故の処理にかかる膨大な費用についての報道が気になってしまうような状態です。しかし、最近多く報道される東日本大震災の被災者の生活、特に小中学生が学校でいじめの対象になっていることを知り、教育現場で働く一人として大変残念に思います。その中には、子どもによるいじめだけでなく、教師、大人からの子どもの心を傷つける発言、いじめを助長するような発言があったことも同時に報道されていました。

福島から避難生活をしていて今回のいじめをうけた子どもの保護者の方が「わたしたちが何をした」とおっしゃったこと、この一言の重みをしっかりと受け止めなければならないでしょう。

いじめは、人を思いやることなく、ずかずかと心に入り込み、そこでたくさんの傷をつけてしまいます。いじめは子どもだけの力では解決が難しいことが多いです。私たちにできること、わたしたちがしなければならないことは、目の前にいる子どもたちの「今」を受け入れて、子どもたちが安心して生活できる場を作っていくことだと考えます。

【交通事故の犠牲に】

子どもたちが通学路を歩いていて交通事故に巻き込まれてしまうことがこのところ特に多く伝えられています。高齢者の運転による交通事故の多さも指摘されていますが、子どもたちが事故に巻き込まれるのはそういう事故ではありません。

国からも、通学路の安全確保について、家庭・地域・学校が連携するようとの注意喚起がされています。私学の場合、安全指導において地域や家庭との連携はなかなか難しいですが、それだけに、家庭または学校で責任を持たなければならない範囲がより鮮明になります。そして、子ども自身の安全に対する意識を高めることが大切です。

家から最寄りの駅やバス停まで道は、交通量が多くないでしょうか、歩道はあるでしょうか、歩道にはガードレールなどで車両が侵入できないようになっているでしょうか。信号がある横断歩道もあればない横断歩道もあると思いますが、子どもたちはそれぞれの場で安全に気を付けながら道路を横断しているでしょうか。まちがっても、横断歩道のない場所での道路横断はしていないでしょうか。

栗平駅までは電車やバスを利用する子どもたちがほとんどですが、ここでは安全確保と同時にマナーの遵守が求められます。栗平駅から学校への道は、歩道はありますが、途中の県道の横断は交通量が多いため信号にしたがって安全に気を付けて歩くことが大切です。学校近くの横断歩道では教員や警備員が安全確認を行うようにしていますが、本来ならば自分できちんと安全を確認して道路を横断できるようにならないといけないのです。また、横断歩道の前で車を止めて下さった方には軽い会釈などで感謝の気持ちを伝えられるとよいでしょう。

【子どもとの会話の時間は？】

子どもたちの「心の安定」が大切であることは誰もが認める場所ですが、その心の安定を作り出すために、どのようにしているかと言うとそれはそれぞれの家庭の考え方、時間的な余裕の有無によって異なります。学校での子どもたちとの会話や担任・副担任からの報告で、学校から帰ってからの親との会話の時間がだんだん少なくなってきたのではないかと感じる場合があります。子どもの習い事、親の帰宅時間などの関係で、食事も親と子どもでは別々の時間にとっていることもあるかもしれません。

よく耳にするのは、子どもが大きくなると（高学年になると）だんだん学校のことを話さなくなるということですが、だからそばにいてもいいということではなくて、子どもが何かを話したいと思ったときに、いつでも聞いてあげられるところに親がいてくれることが大切なのではないかと思えます。

言葉で気持ちを伝え合うことを日々の家庭生活、学校生活では大切にしていきたいと考えます。会話がある家庭では、大きなトラブル（子どもの反抗期と言われるときなどにも）は起きにくいと思えます。逆に、大人側からの一方的な考えの押し付けは、いつか子どもに届かなくなっていくと思います。子どもが持つ素直な心、優しい心、正直な心を大人の関わり方しだいで育てることも、壊すこともできます。みんなが気を付けなければならないことです。

最近の学校選びの基準が、給食、放課後の預かり、英語学習と耳にしました。お仕事を持たれている方が増えてきている中で、当然のこととも言えます。しかし、お弁当を通しての親子のやりとり、学校から帰ってからの子どもと過ごす時間の大切さも忘れてほしくありません。